５つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
草莽荘の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.543
製材に出す木が予定より少なかったので１本間伐

【定例活動報告】

草莽荘（そうもうそう）の森

今年は8月に入り、台風10号が広島県に上陸多大の被害を出すなど、台風を期に長雨が続いている。

本日も定例活動は中止であるが、台風による影響を点検する為、数人が参加した。圏央道は、厚木ICから先は通行止めで中央高速も同様で渋滞していた。原因は高尾山で土砂崩れが確認されたからだ。益々、心配になり草莽荘に向った、道路は山側から川の様に多量の水が溢れ出して、歩くには大変な状況を確認した。草莽荘に被害はなく掃除をして帰った。

令和元年の県内の被害は記憶に新しい。相模湖での1時間降水量68.5㎜は歴代一位の降雨量は、小原や嵐山で我々が経路整備をしていた場所が跡かたなく削られ、見るに無残な姿に唖然とした経験は忘れない。丸２年を経過

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

しようとしているが、一向に修理される形跡もない。もう二次災害はないものと処理されているのか知りませんが、我々は毎年訪れる台風の度に悪夢にうなされることになる。

被害の傷跡は、NPOや地域活動では何ともできない状態だけに、今後の再生プランだけでも示して欲しいものだ。協力できることは協力したいと思っている。

写真：個人的話題ではありますが、活動中止を利用して、「木耳（キクラゲ）」の菌床が我がハウスに初めて入床しました。

小林　照夫（本会、理事）

【定例活動報告】知足の森

８月１日の定例活動では、まず今までに切った木の直径を測りました。長さが違う場合もあるため縦と横、反対側の直径を測ったものもありました。その木はみんなで軽トラックまで運びました。私は最初に木村さんと運んだのですが、私が何度も落として迷惑をかけてしまいました。とても重かったのですが何とか運ぶことができたのでよかったです。

その後はお弁当をあずまやで食べました。食べ終わった後もたくさん休みました。途中でキュウリやトマトを持ってきて下さった人がいて、私はトマトを食べました。それで、午後は別の森で木をまた運びました。１本の木を4人くらいで運んだこともあるくらい、運ぶのが大変でした。私はうまく運べなくてやっぱり迷惑をかけてしまったので、みんなみたいにスムーズに運べるようになりたいと思いました。その後はトンネルで休みました。休んだ後は、男子が木を切って私は主に枝を切りました。

最後に沢に行きました。少し遠かったけれど、とてもきれいな沢で行くことができてよかったです。

市川　菫（GREEN TECH ENGINEER LAB　中学１年）

【若者の森づくり】地球環境部

コロナウイルスの感染が続いているため、普段接点のない若者同士が交流する体験学校は中止となりましたが、日々の関わりがあり、ある程度リスク管理が可能と判断した小菅村研修は実施することができました。参加者の感想をご紹介します。

初日から農作業がありジャガイモ堀を行った。晴天で暑かったが2人1組のペアで協力したり、先輩に手伝ってもらったことでスムーズに終わらせることができた。鍬の使い方やジャガイモの分け方などは現地の人に教わりながら大量のジャガイモを取れた。鍬にも2種類あり2人ペアで交互に行うことができた。大きい鍬である備中鍬は少し重くて土を掘り返すとき大変だった。

また、小さい鍬の手鍬も周りを掘って畝を直さないといけないので大変であった。アンデスレッドは外側も結構赤いため見つけやすかったが、シャドウクイーンは土と同化していて難しかった。シャドウクイーンを見つけた達成感は高かった。掘ったジャガイモは先輩達が料理してくれて、バーベキューの肉と同じくらい食べた。（3pに続く）

桜井尚武の森のコラム

「ムラサキシキブ（*Callicarpa japonica*）」

図1　ムラサキシキブの花

20070706高尾小下沢国有林

図2　ムラサキシキブの実

20101114茅ケ崎里山公園

クマツヅラ科の樹高3m程度になる落葉低木。北海道南西部以南の日本全土と朝鮮・中国に分布し日本では各地の山野の陽の当たる所に普通です。葉は対生し枝の両脇に揃って並びます。細かい鋸歯があり先端はとがります。5～7月にピンクの集散花序を葉腋につけ（図1）、秋に綺麗な紫色の丸い実をつけます（図2）。古くの名はムラサキシキミ（紫重実）だったのが江戸時代にムラサキシキブと呼ばれるようになり、この実の様な色を紫式部（色）と名付けたといいます。

同属のヤブムラサキ(*C.mollis*)は宮城県以南の日本全国の山野に普通で、朝鮮・中国にも分布します（図3）。ムラサキシキブとよく似ていますが葉の表面に軟毛、裏面に星状毛を密生しているので触るとビロードの布のような感触があるので触れば区別できます。本種はムラサキシキブより耐陰性が高く樹陰下の下層木の中によく見られます。毛深いせいか葉脈がムラサキシキブよりやや不明瞭なので。この点でも識別できます。コムラサキ(*C.dichotoma*)は本州、四国、九州の山野や原野の湿地に生えるといいますが私はまだ自然状態での本種を見ていません。樹高1.5m程度の小低木で葉も小さいのですが沢山の紫色の実をつけて纏まりもいいため、庭木や公園木に使われて街中でもよく目につきます（図4）。小振りなため紫式部に対する小式部内侍を想定してコシキブとも呼ばれるそうです。

図3　ヤブムラサキ

20181118嵐山

図4　コムラサキ

20210825南千住公園

さて、ムラサキシキブは低木ですが材が丈夫なので金槌で叩かれるノミ（鑿）の柄に最適ということからノミヅカともいうそうです。細くても丈夫な真直ぐな幹が採れるため、この幹が先込め銃の弾の装填用具に使われたといいます。一升瓶に入れた米を搗く（精米する）のに使ったというかつての生活用具の記録も採集されていてコメゴメという地方名があります。ヤブムラサキやコムラサキが同様に使われていたかどうかは知りません。勿論これらの実はメジロやキビタキなどの小鳥の大事な餌です。

桜井　尚武（本会、会員）

ジャガイモそのままの食感や風味を味わえた。ジャガイモの掘り方を教えてくれた小菅村の方々、アドバイスや料理を作ってくれた先輩の皆さんありがとうございました！

相川　雅門（GRREN TECH ENGINEER LAB中学２年）

私がこの合宿で印象的だったのは、わさび田の整理です。もともとわさびは水がきれいなところでしか育たないとこは知っていましたが、わさび田が思っているよりも山奥にありびっくりしました。わさび田につくと、色々なサイズのわさびの葉っぱがみえました。

いざ、わさび田に入ると雑草や落ち葉がたくさん田んぼの中に入っておりそうじのかいがありそうでした。まず、わさびを抜きました。抜くときに力を入れすぎるとわさびが折れてしまい、入れなすぎると抜けないため、力の強さのコントロールが大変でした。次に雑草や落ち葉を拾いました。それが終わると笹ぐわでわさび畑を耕しました。一緒の田んぼをやっている人と一列になり誰かが先に行くことがならならいようにするのが大変でした。

　わさび田を耕していると、小さなカエルやサワガニがいてわさび田は小さな生き物の隠れ家になっていることがよくわかりました。そんなわさび田も温暖化や環境破壊によりきれいな川が少なくなってわさびが育たなくなってしまうので私ができることを少しずつやっていきたいです。

酒井　梨来
（GRREN TECH ENGINEER LAB
中学1年）

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
　　積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
　　コンサベーション・アライアンス・ジャパン
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
　　東京学芸大学環境教育研究センター、
　　（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
　　（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

緑の募金
一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団
SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM
CAJ Conservation Alliance Japan 一般社団法人 コンサベーション・アライアンス・ジャパン